

## マンガ学のすゝめ

日下, みどり  
九州大学比較社会文化研究院 : 教授

<https://hdl.handle.net/2324/16800>

---

出版情報 : 西日本新聞, 2002-01-25. 西日本新聞社  
バージョン :  
権利関係 :

日韓ワールドカップ開催を控え、映画や音楽、テレビドラマなどで文化交流が盛んだが、マンガ界でも日

日下みどり

# マンガ学 その4 のすゝめ



金恵璘「飛天舞」(©タイガーブックス)

韓の交流が進んでいる。日本マンガは一九九八年、金大中大統領の日本大衆文化開放発表により公式に「解禁」された。もっとも、実際はそれ以前から韓国で流通しており、読者は

ただ、韓国マンガは日本マンガと幾つかの相違点がある。

▼▼▼

1、子供マンガが少なく、劇画系の青少年マンガが主

ガ・アニメ関連学科がある(政府主導型。日本と反対)。4、中国を舞台にした武俠マンガが発展している。特にこの、武俠マンガの発展は面白い現象だ。留学生に聞いたところ、

## 韓国マンガがやって来た

# 「武俠」は受け入れられるか

自国のものと思つて読んでいたという。そのせいか韓国マンガの表現は日本マンガとよく似ており、日本人にはなじみやすい。日本市場参入という点からいえば、韓国マンガは他の国のマンガに比べて、だんとうに有利なのだ。

流(資本マンガが多い)。2、表現に規制が多い。例えば『クレヨンしんちゃん』は「親に生意気な口をきくから」という理由で悪書の棚に置いてある。3、政府がマンガ産業の育成に熱心で、現在では全国の大学に三十以上のマン

韓国では一時期「武俠小説」が大いに流行ったという。武俠小説とは中国で盛んに出ている、歴史小説に武術をからめた小説のこと。特に香港の金庸作『書剣恩仇録』などは大ベストセラーで、中国人なら誰でも知っているだろう。清朝の乾隆帝が、実は満州族ではなく漢族だったという設定で、秘密結社、正義の剣客、砂漠の美女が入り乱れる愛憎の物語。他にも傑作が多く、韓国では以前に金庸らの武俠小説が翻訳されて人気を呼び、韓国人作家も武俠小説を書いて大流行したという。韓国の武俠マンガの発展は、先に武俠小説の流行という下地があったからなのだ。

ガの輸入が盛んになり、「韓国マンガがやって来た」との宣伝文句で書店に何冊も並んでいる。どれもそれぞれに面白いが、個人的なお勧めは『飛天舞』という作品。韓国では映画化されて大ヒットしたベストセラーだという。作者金恵璘は女性、絵は池田理代子ばりの華麗さで帯に「純愛武術漫画」とある。元朝末期の中国を舞台に、家を滅ぼされた名家の貴公子チナ(武術の達人)と、蒙古の血をひく「浙江一の美女」ソルリ(同じく武術の達人)との壮大な歴史的純愛を描く。

「小説・映画・マンガ」は、表現手段はそれぞれ文字・映像・絵と文」というように異なっているが、何かを表現するメディアといふ点では共通しており、互いに関連している。小説や映画が国によって味わいが違つように、マンガも国によって好みや傾向が異なる。私は平素から、日本で武俠小説があまりヒットしないのを不思議に思っていた。果たしてその日本で、韓国武俠マンガは受け入れられるだろうか? 興味のあるところだ。(くさか・みどり 九州大学大学院教授)

▼▼▼

去年あたりから韓国マン